



## MFJ All Japan Road Race Championship, round 6 at MOTEGI MORIWAKI RACING Race report

GP250 class

#83 Shogo Moriwaki Qfy/1st

Time: 1min53sec758

Race/TOP best time: 1min54sec586



### GP 250

MD600 development has been in "race phase" since the last All Japan Championship in Okayama. We are again taking this great opportunity to test the machine in All Japan Championship, Twin Ring Motegi round.

There was 3days test at Motegi in previous week, however, the typhoon brought us wet condition and we couldn't have sufficient test in dry condition. We were only able to start testing with slicks from Friday's A.R.T. official test.

We brought newly developed #10 proto which design was based on the data we gained from last race with #7 machine at Okayama, and #9 proto. Because we didn't have enough test data of the new swingarm we designed for #10, we adopted the swingarm from #9 to #10 and used it as a main machine.

Our target at Motegi was 1min51.412sec, MotoGP GP250 circuit record.

We had 2 sets of 30min on track, from 8:30 in the morning and 12:15 in the afternoon. Since we didn't have any data of dry condition test, we had to start looking for basic balance of front & rear. We were trying some new design ideas in #10 proto so we couldn't just use data from other proto machines. 1hr on Friday wasn't enough for us to find the basic machine balance.

The Saturday qualifying session was 35min only. If we could have another session, we may be able to try something first and change, but that wasn't the case. We set up the machine based on the Friday's data and went for 35min. It wasn't satisfactory result but it was enough to put us on the top of the time sheet; 1min53.753sec.

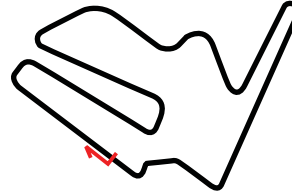
We used the 15min of Sunday warm up session to further improve the machine setup before the race. There were some red flag incidents in other classes and our race delayed for 30min, scheduled to start from 15:40, temperature was already going down.

Team manager, Mamoru Moriwaki decided to change the setup to adapt this temperature change. This was one of test subjects we wanted to work on during this race week.

The race started. Shogo Moriwaki was the first one to go into the first corner. He was passed by one GP250 rider at V-curve in the lap but recovered his position soon and started leaving all 250s behind. Although, 1min55s sec pace was faster than GP250s, it was far slower than our objective. He marked 1min54.786sec, the fastest lap time of the race at the last lap and finished.

#### [ CIRCUIT DATA ]

TWIN RING MOTEGI



LENGTH 4,801m

STRAIGHT 762m

RIGHT TURNS 8

LEFT TURNS 6



GP250クラス

#83 森脇 尚護選手 予選 1位 予選タイム: 1min53sec758  
決勝 TOP 決勝BEST: 1min54sec786

## GP 250

### 森脇尚護監督

「決勝はサスペンションをハード方向に振って走らせました。結果的には今日のコンディションに合っていなかったようで、かなりスローペースでのレースになってしまいました。ですがこのマシンはユーザーに渡して使ってもらうために開発しているのだから、こういう悪い状況というのもこの段階では経験しておくことが大事です。そういう意味で、これもいいデータ取りになりました。とにかく今回のレースウィークは走る時間が少なすぎました。ですが、限られた時間の中でもトライしてみたいと考えていたことがいくつか投入し、データを得ることができたので、収穫はありました。これで車体の基本寸法はある程度確定できたので、今後はこの10号機フレームをベースにして軽量化を進めていきます。軽量化は設計グループで進めることができるので、ここまで重ねてきた走行開発とは別の流れで行うことができます。まったくゼロからモノ造りをするということは、我々のような仕事をしている人間にとっては、本当に楽しい作業です。開発陣も非常に意欲を持って取り組んでくれており、開発のスピードもどんどん上がっています。私が長年経験してきた事柄を3年ほど前から若いスタッフに伝える作業をしてきているのですが、今回のMD600プロジェクトには、それが大いに役立っています。全日本への参戦はここでいったん終了し、このあとはスペイン選手権を戦うチームからマシンを走らせたいというオファーがあるのでそれを受け、MD600を走らせるために向こうへマシンを送ります。できるだけ多くのライダーに開発段階で乗ってもらうことで、さまざまなデータをマシンヘフィードバックしたいので、絶好のチャンスだと考えています。さらにマシンを進化させ、皆さんに喜んでいただけるようなレースができるよう頑張りますので応援、宜しくお願いいたします。今回もとてもたくさんのファンの方に声をかけていただきました。ありがとうございました。」

### 森脇尚護選手

「今日はサイティングラップを終えた時点で大きく振ったセットアップの方向性が、狙った方向から大きくずれていることが分かっていたので、序盤は慎重に走ることを心がけました。特にスタート直後は気を付け、意識してペースを落としましたので、1周目にパスされたシーンは想定していました。そうしたマシン状況だったので、ペース的には1分55秒台とスローでしたが、ライディング面で抱えているネガが消せないか、いろいろトライしてみました。そうしたトライの中でいいところ、悪いところも見え、オーバーランしそうなラインにつき過ぎたりする中で、いいところをそれぞれ組み合わせたらどうなるかトライしたのが、ラストラップの1分54秒台でした。レベル的にはまだまだ低いところのものでしたが、走行データを得るという意味では、いろいろ収穫は大きかったです。今回のレースウィークは250ライダーと一緒に走るチャンスもあったので、彼らがどのようなラインで走るのか、MD600と直接比較することもできたので貴重な開発となりました。金曜日に午前と午後で合計1時間、土曜の予選は35分、決勝は20分弱と、トータルで2時間弱は、三日間の走行として少ないのが残念です。開発ライダーとしては、もっと走りたかった、というのが正直な感想ですね。そういう意味では思ったほど開発を進めることはできませんでしたが、自分自身のノウハウや、マシン造りのヒントになることはとても多かったです。得たものはすべて、今後の開発に生かしたいと思います。今回もたくさんの応援をいただきましてありがとうございました。」

